二国間交流事業 セミナー報告書

令和4年4月18日

独立行政法人日本学術振興会理事長 殿

[代表者所属機関・部局]
一橋大学・社会科学高等研究院
[職・氏名]
特任講師・Yao Ying
[課題番号]
JPJSBP220209908

1. 事業名 相手国: 中国 (振興会対応機関: OP) とのセミナー

2. セミナー名

(和文) 日中における健康関連の持続可能な開発目標の実証研究と今後の展開

(英文) Workshop on the Sustainability of Health, Environment, and Development

3. 開催期間 2022年3月10日 ~ 2022年3月11日 (2日間)

4. 開催地(都市名)

東京(Tokyo)

5. 相手国側セミナー代表者(所属・職名・氏名【全て英文】)

Fudan University, Professor, Guanghua Wan

6. 委託費総額(返還額を除く) 817,300 円

7. セミナー参加者数(代表者を含む)

	参加者数	うち、本委託費で渡航費または日本滞在費を負担した場合*
日本側参加者等	11名	0名
相手国側参加者等	8名	0名

参加者リスト(様式B2)の合計人数を記入してください。該当がない箇所は「0」または「-」を記入してください。

* 日本開催の場合は相手国側参加者等の日本での滞在等、相手国開催の場合は日本側参加者等の渡航費を本委託費で負担した場合となります。

8. セミナーの概要・成果

(1) セミナー概要(セミナーの目的・実施状況等。第三国からの参加者(基調・招待講演者等)が含まれる場合はその役割とセミナーへの効果を記載して下さい。関連行事(レセプション、見学(エクスカージョン)その他会合(別経費の場合はその旨を明記。))などがあれば、それも記載してください。各費目における増減が委託費総額の50%に相当する額を超える変更があった場合には、その変更理由と費目の内訳を変更しても研究交流計画の遂行に支障がなかった理由を記載してください。)

本セミナーは、日中において一流の研究機関を巻き込むことにより、HIAS Healthの研究ネットワークを広げることを目的とする。令和3年12月2日～12月3日の予定でセミナーを開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大が収まらず、相手国側参加者の日本への渡航が依然として困難であったため、相手国代表者と調整の結果、令和4年3月10日～3月11日で、オンラインセミナーを実施した。令和3年度への実施期間の延長に伴い、(1)セミナーの日程の変更による参加者の変更、(2)対面からオンラインへの開催方法の変更、などが生じたため、相互の研究発表の理解を深め、研究ネットワークをより強固なものにするため、セミナー内容の英中同時通訳費を支出した。渡航費や消耗品費の支出がなかったが、研究交流計画の遂行に支障はなかった。

(2) 学術的価値(本セミナーにより得られた新たな知見や概念の展開等、学術的成果)

健康に関連するSDGsへの関心が高まる中、医療資源の配分や医療システムの持続可能性において、医療政策の取り組みの重要性は一層高まっている。この課題は広く認識されているが、国によって政策的な背景が異なるため、正しい解決策はない。問題解決には、各国の状況に適した実際のデータと証拠、そして異なる分野の専門家の意見が必要となる。本セミナーのテーマは、地域の保健政策対話に貢献する分析に焦点を当てた定性的および定量的研究である。研究者は、情報交換や議論を通じて、地域の保健政策や研究に関連するデータ・調査などの情報を迅速に入手し、共同研究の基礎として使用することができる。

(3) 相手国との交流(両国の研究者が協力してセミナーを開催することによって得られた成果)

本セミナーでは、アジアにおける健康関連のSDGsの課題と実施を取り上げ、基調講演セッションと3つの通常セッションが行われた。基調講演セッションでは、日中における医療アクセスの公平性と経済成長のトレードオフに焦点を当てた。各セッションでは、両国ともに関心のある「開発と社会福祉」、「医療政策」、「医療制度の持続可能性」などの課題について話し合った。両国の政策的文脈が異なるが、同じ研究テーマに関心のある研究者との共同研究を模索するための契機を提供した。参加者は発表された研究を通じて、共同研究に必要な資料及びデータや政策背景などの情報を交換し、活発な議論を行ってきた。セミナー終了後、中国側の研究者は、共同研究の展開について必要な資料やデータを提供する意向を改めて表明した。今後、国際共同研究や定期的な学術交流に繋がる大学間パートナーシップの構築を進めていくことが期待できる。

(4) 社会的貢献(社会の基盤となる文化の継承と発展、社会生活の質の改善、現代的諸問題の克服と解決に資する等の社会的貢献はどのようにあったか)

本セミナーでは、異分野の研究者が対話することで、SDGsの課題に対する学際的な視点を促進し、自身の研究を拡張し、新しい知見を創出し、政策立案や評価のためのエビデンスを提供することができ、政策の持

続的發展に寄与することが期待できる。一方、大学間交流や国際共同研究の活用は、国際理解の促進、国際協力精神の醸成、若手研究者の育成、そして国と国の「架け橋」となることが期待されている。

(5) 若手研究者養成への貢献(若手研究者養成への取り組み、成果)

各セッションでは、若手研究者が研究論文を発表し、経験豊富な研究者が議論者として論文をコメントし、最後に若手研究者が討論者や他の参加者からの質問に答えるという形式で行われた。若手研究者は、フィードバックを通じて、自らの研究に対する理解を深めることができた。また、両側研究者の連携により、研究の最前線に触れることができ、国際共同研究に参画する意欲を高めることができた。若手研究者は、研究交流が定期的に開催されることへの期待を表明した。

(6) 将来發展可能性(本セミナーを実施したことにより、今後どのような發展の可能性が認められるか)

本セミナーの開催は、継続的な研究協力や教育交流に向けた国際連携のさらなる一歩となった。本セミナーの枠組みをもとに、国際共同研究のための外部資金獲得、定期的な学術交流の継続、若手研究者の国際的研究のプラットフォームを提供することに努める。また、一橋大学と中国の大学との交流協定を活用し、若手研究者や学生の交流・育成につながる大学間連携を強化することが期待できる。

(7) その他(上記(2)~(6) 以外に得られた成果(論文発表等含む)があれば記述してください)